

なわとび旬間について

体力向上委員会

足立区では、児童の体力向上への取り組みとして「縄跳び」を推奨しています。短縄では、区で定めた縄跳び検定があり、ブロンズ・シルバー・ゴールドと技の種類や跳ぶ数、時間が決められ、カードによる検定を行います。長縄では、時間を3分間に区切って、低・中・高学年ごとに目標値を決め、学級全体で取り組みます。

これまでも、それぞれの学年や学級で取り組んできましたが、学校全体で1月12日～2月5日を縄跳び旬間と定めて、朝7時50分～8時10分を短縄の練習時間として取り組みました。

最初は参加者が少ないように思いましたが、だんだん参加者も増えて特に低学年には好評でした。学年によっては、授業前に準備運動として取り入れているところもあります。

27年度のなわとび旬間の目標の一つに「目標をもって縄跳びに取り組み、寒さに負けない丈夫な体をつくる」がありましたが、例年よりも寒さが厳しい中で、子どもたちはよく取り組んで達成できました。

縄跳び旬間が終わっても、さらに記録に挑戦してほしいと思います。

東京芸術大学コンサートについて

音楽部

2月19日(金)東京芸術大学からピアノ、ヴァイオリン、トロンボーンの3名の方が来校し、コンサートが行われました。それぞれのソロの演奏、3名のアンサンブル、そして最後は本校ジュニアバンド部6年生との共演がありました。全校児童が楽しいひとときを過ごしました。

平成27年度舎人地区対善行青少年顕彰式について

生活指導部

平成27年度舎人地区対善行青少年顕彰式が2月16日(火)に舎人地域学習センターで行われました。この青少年顕彰式は、俳句・習字・作品展などで個人で活躍した児童やあいさつ隊・花づくり隊・児童会・Jrバンド等、日頃、頑張った児童を顕彰するものです。今回は12名の児童が顕彰式に参加しました。おめでとうございます。参加した児童は以下の通り。

【学年・氏名・受賞理由】

- 3年 張替心愛 (俳句で毎日小学生新聞・題王賞を受賞)
- 4年 鈴木ひな (書道教室より作品を出品し南山賞を受賞)
- 5年 渋谷海斗 (わんぱく相撲足立区大会5年生部で優勝、
東京都大会5年生の部で準優勝)
名嘉眞竜昌 (全国U12ボクシング大会に出場し準優勝)
- 6年 木村祥太郎 (東京都統計グラフコンクールで東京都都知事賞を受賞)
岡田拓也 (地域子ども会) 藤原悠斗 (地域子ども会)
浦澤秀吉 (あいさつ隊) 安田茉柚 (児童会) 新井菜々 (地域クリーン隊)
渡辺恭平 (花づくり応援隊) 西塚萌 (ジュニアバンド)

飼育園芸委員会について

飼育栽培委員会

飼育園芸委員会の主な活動は、飼育小屋で飼っているウサギの世話や、植物の世話をしています。ウサギの世話としては、朝に、ウサギに水とエサをあたえたり、ウサギ小屋の掃除をしたりしています。

舎人第一小学校では、2匹のウサギを飼っています。ウサギの名前は、「まっしろっぴー」と「スイカ」です。「まっしろっぴー」はおとなしく、「スイカ」は元気で食欲旺盛です。土曜日や日曜日や祝日、そして長期休業中も順番に世話をするなど、児童の日頃からの活動によって、また、いつも細かく掃除をしてくれる主事の矢萩さんのご厚意によって、ウサギたちは元気に一年を送ることができました。

3月3日（木）の委員会活動紹介の集会に向けて、飼育園芸委員会では、全校児童にも、委員会の活動内容を知ってもらうために、劇とウサギに関するクイズからなる発表の練習に励んでいます。



卒業を控えて

6年担任

3月になり、いよいよ「卒業」という気配が色濃くなってきました。卒業式などの練習や準備が始まり、子どもたちからは、残りわずかな小学校生活を惜しむ声や、中学校生活を待ちわびている会話などが聞こえてきます。

この1年間、舎一小のリーダーとしての子供たちの活躍ぶりは素晴らしいものでした。年間を通して1年生のお世話をしたり、たてわり班のリーダーとなったりして、思いやりの気持ちや責任感が高まりました。休み時間にも、下級生が6年生を慕って、一緒に仲良く遊ぶ姿もたくさん見られ、微笑ましかったです。

運動会での組体操。一つ一つの技にたくさんの拍手をいただきました。退場のときの、全力を出し切った子どもたちの満足げな表情が、今でも忘れられません。連合運動会でも好成績を残すことができました。そして、創立30周年記念式典。大勢のご来賓の方々の前でも、呼びかけと心のこもった歌を披露し、最高学年としての存在感を大いにアピールしました。

この6年間、子どもたちは一つ一つ壁を乗り越えて、ここまで成長してきました。学校では、教職員一同協力し、子供たちが輝けるよう全力を尽くしてきましたが、何よりもご家庭での支えがあってこそその成長です。この小学校卒業という節目を迎えるにあたり、子供たちには、自分の生活を振り返り、自分を支えてくれている人々に気づいてほしいと思います。何気ない日常の中にも「感謝」の気持ちを持ち、それを伝える大切さを呼びかけていきたいと思います。